

文化財 ニュース

17 2019



ニコライ堂（絵葉書より）

明治24年（1891）竣工。関東大震災でドームと鐘楼が崩壊したため、現在とは形状が異なる。



ニコライ堂内のイコノスタス
（水島行揚編『東京復活聖堂画帖』
正教本会編輯所、明治38年より）個人蔵
壁面に多数のイコンが描かれている。
信徒たちが説教を聞いている場面を撮影。

千代田の歴史こぼれ話

ニコライ堂のイコン画家 山下りん

神田駿河台のニコライ堂（東京復活大聖堂教会）は、ロシアから来日したニコライによって建設された正教の教会です。建設当時は東京のどこからでも見ることのできるランドマークとして親しまれました。

正教の聖堂には、一般の信徒が祈禱する場所と聖職者が祭儀を行う場所を区切るイコノスタス（聖障）と呼ばれる壁があります。イコノスタスには多数のイコン（キリストやマリア、聖書の場面などを描いた絵画）が飾られています。

ニコライは、日本の正教会には日本人の手によるイコンを飾りたいと考え、工部美術学校で西洋絵画を学んだ山下りん（洗礼名イリーナ）に白羽の矢を立てます。明治13年（1880）、りんは絵画修行のためサントペテルブルグへ旅立ちました。

りんはロシアの地でイコン画法を学びながら、暇を見つけてはエルミタージュ美術館に通い西洋絵画の技法習得にも努力しました。

明治16年（1883）に帰国したりんは、ロシアから招かれたイコン画家ペシェホーノフの助手としてニコライ堂を飾るイコンの制作を行いました。その後、ニコライ堂敷地内のアトリエに暮らし、日本各地に建設される正教会を飾るイコンを静かに描く生活を送りました。目を病んだりんは、大正7年（1918）、故郷の茨城県笠間町（現在の笠間市）へ帰り、昭和14年（1939）

に亡くなるまで絵筆を取ることはありませんでした。

大正12年（1923）9月1日、関東大震災でニコライ堂は内部が焼失したため、堂内のイコンの多くは失われました。りんの描いたイコンは、現在も東北地方を中心として日本各地の正教会に飾られています。

（長谷川怜）



山下りん（白凜居 所蔵）

日比谷図書文化館のフレスコ壁画

千代田区立日比谷図書文化館の1階入口に見える壁画は、階段をはさんで向かって右が「文化の壁」、左が「平和の壁」です。この壁画は、昭和32年（1957）に現在の三角形の建物が建設された際に描かれたものです。

当館の前身である日比谷図書館は、明治41年（1908）に日比谷公園にて開館しました。しかし、当時の建物は昭和20年（1945）5月の戦災で失われ、その再興として、昭和32年に都立日比谷図書館が新たに建設されました。開館100周年を迎えた平成20年（2008）に東京都から千代田区へと移管され、平成23年（2011）11月4日にオー

ブンしたのが当館です。移管後の改修工事を経ても変わらず、この壁画は昭和32年からずっと来館者を出迎えています。

壁画の制作は実験的なもので、11人の画家たちによる共同制作でした。昭和32年の日比谷図書館建設の際、美術評論家の柳亮は色彩計画を担当していました。彼は共同制作を新しい芸術活動であると考え、芸術家の研究集団JAN（Jeunes Artistes Nouveaux）の会員たちに図書館を飾る壁画の制作を呼びかけます。柳は共同制作の意義とは、師弟関係ではなく、対等の立場にある作家たちが彼らの主張や個性を生かしながら、協力し

平和の壁（左）

- 主像 《鳩を抱く平和の女神の立像》 藤井令太郎 ふじ いれいたろう
1. 愛情 《聖母とキリスト（エジプトへの逃亡）》 伊藤禎朗 いとうただ お
2. 自由 《パルテノン神殿とアクロポリスの丘を飛ぶ鳩》 田中岑 た なかたかし
3. 良識 《中世風の学校と書籍》 中村道 なかむらみち
4. 奉仕 《供物を運ぶ群像》 福井敬一 ふくい けいいち
5. 協和 《オーケストラ》 笹岡了一 ささおかりょういち



あって調和を達成することだと考えていました。そのため、壁画制作では、画家たちが各自持ち寄った構想下絵のなかから、合議制でアイデアの面白いものを選び組み合わせて、画面を構成していききました。各壁には、その主題である「文化」と「平和」を表す人物像と、主題について5つの象徴となるモチーフが描かれています。

この壁画の制作には、フレスコ画の技法が用いられています。フレスコ画は、地塗りの壁が乾ききらないうちに描かなければならないので、作業を始めたらず急いで仕上げなければならず、修正ができません。しかし、^{はくらく}絵具が剥落する恐れがない

ので、耐久性においては非常に優れています。

フレスコ画の特性と、公共図書館を飾る壁画であることを配慮し、壁画の原案ができたところで、世評を聞くための展示会が銀座トキワ画廊で開催されました。また、壁画制作に関する一連の過程は、美術雑誌『アトリエ』367号（1957年9月刊行）に詳しく記録されています。

「文化」と「平和」をテーマに共同制作されたこの壁画は、まさに図書館という存在を象徴するものといえるでしょう。

(井上海)

文化の壁（右）

- 主像 《創造の女神ポモーナが膝に果実を受ける立像》 藤井令太郎
1. 意欲 《奔馬》 齋藤正夫 ^{さいとうまさお}
2. 技術 《機械の構成》 五味秀夫 ^{ごみひでお}
3. 創造 《果実をつけた樹木》 武藤久 ^{むとうひさし}
4. 勤労 《男女の勤労者》 横地康国、武藤久 ^{よこちやすくに}
5. 蓄積 《蜜蜂と花》 松村禎夫 ^{まつむらさだお}



埋蔵文化財包蔵地のお問い合わせについて

千代田区には、現在 88 件の遺跡と 3 件の史跡・特別史跡が登録されています。区内は、全域が東京都埋蔵文化財事務処理要綱で定められている「江戸遺跡」の範囲に含まれているため、近世の遺跡についてもこれまでに多くの調査を行ってきました。近年でも、開発や工事に伴って新たに遺跡が発見されることが度々あり、文化振興課では、調査・保護等に努めています。千代田区内には、まだ知られていない遺跡が数多く眠っているのかもしれない。

ご自身のお住まいや売買を予定されている場所が、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）にあたっているかどうかは、右側の方法で調べることができます。ご希望の方は右記のとおり、ご照会ください。

(相場峻)



神田練堀町遺跡（平成 28 年度に新規発見）

★埋蔵文化財包蔵地の照会方法

《ご用意いただくもの》

①文化財包蔵地の照会用シート

氏名・連絡先・照会地の住所（住居表示）をご記入ください

*千代田区の文化財ホームページ
⇒「埋蔵文化財のお問い合わせ」からシートがダウンロードできます
<http://edo-chiyoda.jp/>

②照会地の範囲を示した地図

（照会地に印を付けてください）

◎窓口の場合

上記 2 点をご持参のうえ、千代田区立日比谷図書文化館文化財事務室(4 階)にお越しください。窓口では時間がかかる場合があります。

窓口時間：午前 10 時～午後 6 時
（土日祝のぞく）

◎FAX の場合

上記 2 点を 03 (3502) 3361 まで FAX でお送りください。

窓口時間：上記に同じ

※ホームページには照会用の書式も掲載しています。あわせてご参照ください。

★電話での回答はしていません★



都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」徒歩 3 分
東京メトロ ●千代田線
●日比谷線 「霞ヶ関駅」徒歩 5 分
●丸の内線

駐車場 当施設に駐車場はありません。

開館時間 月～金 午前 10:00～午後 10:00
土 午前 10:00～午後 7:00
日・祝 午前 10:00～午後 5:00
文化財事務室 月～金 午前 10:00～午後 6:00
※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。
休館日 毎月第 3 月曜日
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理期間

文化財ニュース 第 17 号 (3,000部)

発行日 平成 31 年 3 月 29 日

編集・発行 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-4
TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361
HP: <http://edo-chiyoda.jp>
e-mail: bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp

印刷 株式会社サンワ

